



モクレン

NAO Letter

NAO
税理士法人

編集発行人
代表社員
高井直樹

〒500-8335
岐阜市三歳町4-2-10
TEL 058(253)5411(代)
FAX 058(253)6957

3月

(弥生) MARCH

21日・春分の日

日	・	12	26
月	・	13	27
火	・	14	28
水	1	15	29
木	2	16	30
金	3	17	31
土	4	18	・
日	5	19	・
月	6	20	・
火	7	21	・
水	8	22	・
木	9	23	・
金	10	24	・
土	11	25	・

3月の税務と労務

- | | |
|---|--|
| 国 税 ／令和4年分所得税の確定申告
2月16日～3月15日 | 国 税 ／1月決算法人の確定申告(法人税・消費税等)
3月31日 |
| 国 税 ／個人の青色申告の承認申請
3月15日 | 国 税 ／7月決算法人の中間申告
3月31日 |
| 国 税 ／贈与税の申告
2月1日～3月15日 | 国 税 ／4月、7月、10月決算法人の消費税等の中間申告(年3回の場合)
3月31日 |
| 国 税 ／2月分源泉所得税の納付
3月10日 | 地方税 ／個人の都道府県民税、市町村民税、事業税(事業所税)の申告
3月15日 |
| 国 税 ／個人事業者の令和4年分消費税等の確定申告
3月31日 | |

ワンポイント 公金受取口座登録制度

預金口座の情報をマイナンバーとともに事前に国(デジタル庁)に登録することで、給付金等の申請の際に申請書への口座情報の記載や通帳の写し等の添付などが不要になる制度。口座情報は行政機関等に提供されて、給付金のほか、年金、児童手当、所得税の還付金等、幅広い給付金等の支給事務に利用されます。

見過ごせないスリープテック

睡眠時間は削るもの、と日本では思われがちですが、コロナ禍を経て心身ともに健康的な状態に備えることが重視され睡眠の重要性が注目されています。

経済協力開発機構 (OECD) の2021年版調査によると、日本人の平均睡眠時間は7時間22分と対象33カ国のうち最下位を記録しており1位のアフリカより2時間近く短く、さらに、厚生労働省が公表したデータによると睡眠時間が7時間以下の人の合計が67.7%に及び日本人は全体的に睡眠不足であると言えます。

睡眠は、体調や労働生産性に直結します。企業にとって従業員の健康維持・増進を行うことは医療費の適正化や生産性の向上、さらには企業イメージ向上等につながり、そうした取り組みに必要な経費は単なる「コスト」ではなく、将来に向けた「投資」であると捉えられる「健康経営」の実施が重要

となってきています。この健康経営を支えるのが「スリープテック」です。スリープテックとは、睡眠の「Sleep」とテクノロジーの「Tech」を掛け合わせた言葉でセンサーやアプリといったIT・AIなどの技術を活用し睡眠前の環境、入眠から睡眠途中の覚醒や起床までの定量的な取得データを分析しフィードバックを何らかの形でアウトプットする機器・サービス・システムです。

スリープテックの世界市場は7年後の2030年には約10兆円と現在の4倍ほどに膨らむと見込まれています。脳波による睡眠解析を行い睡眠障害の兆候を探ったり、腕時計型端末で覚醒時と睡眠時の心拍数から精神不調の可能性を予測したり、また、腕の動きを分析することで眠りについた時間や深さなどを測定し精神疾患リスクを提示する機能の開発に乗り出すなどスタートアップの取り組みが相次いでいます。健康経営の視点からも、企業の積極的な取り組みにスリープテックが一役買いそうです。

寒暖差疲労対策

3月になり冬から春になるにつれ寒暖差の大きい季節となりました。だるい、疲れがたまることはありませんか？

それは「寒暖差疲労」かもしれません。寒暖差疲労とは、前日との気温差や、一日の最高気温と最低気温の差が7度以上ある時に起こりやすくなるもので体温を調節する自立神経が過剰に働いて倦怠感、冷え性、頭痛、肩こり、胃腸障害などさまざまな症状が出てしまう気象病の一つです。

冷暖房に頼りすぎるのはよくありません。たとえば、昼間は気温が高いため2時間おきの換気で外気を室内に取り込み身体を冷やしたり、夜は気温が低いので温かい飲み物を飲んで体を温めるなど一日の中で意識的に寒暖差をつけることが自律神経のトレーニングになります。

自立神経は首や耳の周りに集まっています。仕事の合間に首肩の筋肉をストレッチしたり耳をつまんで前後に回したりすることも自律神経の働きを整えるのに有効です。

ひらめくための秘策

仕事をしていると何か良いアイデアはないかなと煮詰まることがあります。いっこうにひらめかない！そんなときは「ぼーっとしてみる」のが一番です。ひらめきとかかわるのが「デフォルト・モード・ネットワーク」という神経活動です。ぼんやりしたり、散歩したり、トイレに行ったりすると急にひらめいたりすることがありませんか。そ

ういう時にデフォルト・モード・ネットワークが活性化することがわかっていきます。脳がこのモードになると自分を振り返ったり様々な記憶情報を物語として脳が作り直して、つながると思っていなかったものがつながりを発見したりするのです。うんうん頭を抱えている状態と逆の散歩やお風呂など何か日頃のルーティンでできる行動でひらめきが生まれ解決できる秘策となるかもしれません。

所在も明確になります。システムに沿って業務を行うことで何が無駄かがはっきりわかるので、業務の効率化が図れます。

トラブルが生じてもシステムとして解決しやすくなるため、ミスやクレームを人のせいにするなど社員同士の不信感がなくなり問題が起きても解決しやすくなります。

(3) 信頼が得られる

ISOの認証を得られると、外部の第三者の証明による社会的信頼が獲得できます。大企業は自社内で独自のシステムを構築できますが中小企業ではなかなか難しいため、第三者であるISOがルールをしっかりと遵守していることを示した結果、認証が得られればそれを公表することで信頼を示すことができます。取引拡大や売上増加にも繋がります、ISOを取得する最大のメリットといえます。

四 ISO 認証のデメリット

(1) 手間やコストがかかる

認証取得には事前準備や人材確保が必要です。マニュアルを文書化する作業や試行錯誤する

記録業務が増加し管理者や担当者の負担が大きくなります。

(2) モチベーション低下

急にルールでがんじがらめになるとこれまでうまく業務体制が動いていた場合、新システムに戸惑ったり慣れるのに時間がかかることもありえます。経営者の目指す理想・目標と現場のギャップが生じ士気の低下が起る可能性があります。

(3) ISOの効果を感じにくい
ルールとマニュアルを作成しただけですぐに効果が出るわけではなく、運用・維持にメリットを感じられず認証登録を解除放棄する企業も散見されています。

これらはISOの運用活用が適切に行われていないことから生じることです。組織内で一丸となってISOに対する理解・認識を徹底させることが重要です。

五 ISO 認証の取得方法

◆事前準備

組織体制を明確化しISO認証の責任者やプロジェクトメンバーを確保します。経営者は

すべての従業員に「ISOを取得する」ことを宣言し、会社全体で取り組む大きなプロジェクトであることを意識づけます。そして、ISO規格について社内で勉強会や研修等を開催し知識を深めます。業務内容を洗い出し、ISO9001規格要求事項に沿って改善点を見つけ改善マニュアルを文書作成します。

それをもとに運用と改善を重ねます。内部監査を行い運用がマニュアルどおり問題ないか、改善ができていないかをチェックします。

運用状況の検証や効率的かつ効果的な改善を行い、マネジメントシステムを更新した際は必ず効果を確認し、効果がある場合には文書を改定し社内に定着させます。

◆審査
第一段階審査↓第二段階審査↓
認定証の発行

☆第一段階審査（本審査）…主に書類審査でマニュアルそのものがISO9001の規格とズレていないかを確認。書類やシステム自体の見直しを図る審査は数回行われ6か月

から1年ほどかかります。
☆第二段階審査…ISOの要求に沿った運用ができていない現場を中心に実地で確認されます。ISOの要求事項すべてにおいて適切性、有効性を評価します。基準を満たしたら登録申請を行い、申請が下りたら、晴れて認定証の発行となります。

☆取得後…認証後は3年に1回の更新審査と年1〜2回の維持審査を受け続けます。認証当初の運用が正しく行われているか、問題が生じた場合の対策が行われているかの2つがポイントとなります。取得して終わりではなく、継続することが最も大切です。

ISO9001の認証を受けることは一言で言うと、企業価値の向上です。ISOの要求事項に沿って運用すれば確実に得られるものです。事前準備や更新など負担となることも多いですが、その分メリットも大きくこれからの事業拡大に向けて会社の強みとなるでしょう。一度検討してみたいかがでしょうか。



非常口の緑のマークやカードのサイズは世界共通です。それは「ISO」という世界共通の規格で国際的に定められているからです。ISOにはモノの規格とマネジメントシステムの規格と大別されます。多くの企業がその認証取得を目指して活動しているのはマネジメント規格の方です。

ISOのマネジメント規格には、さまざまな種類があります。どの規格にしても企業などがその適合認証を取得するには大変な労力が必要となります。にもかかわらず、ISOの認証取得

を目指すのは何のためでしょうか。

ISO認証について詳しくみていきましょう。

一 ISOとは

ISOとはスイスのジュネーブに本部があり国際標準化機構(International Organization for Standardization)の略称で国際的な標準となる国際規格を策定している組織です。1947年に設立され世界で160カ国以上の国家標準化団体で構成されています。

ISO規格は、国際的な取引をスムーズにするため「世界中で同じ品質、同じレベルのもの」を提供できるようにしましょう」という国際的な基準です。約2万ある規格は工業製品・技術・食品安全・農業・医療などあらゆる分野を網羅しておりISOが国際的に共通の基準を設けることで世界中の製品の安全性や質が高まり世界貿易を発展させることに役立ちます。

一方、製品そのものではなく組織の品質活動や環境活動を管理するための仕組みについても

ISO規格が制定されています。これらは「マネジメントシステム規格」と呼ばれ、代表的なものに品質マネジメントシステム(ISO9001)や環境マネジメントシステム(ISO14001)などの規格があります。

二「ISO9001」認証の必要性

企業にとって海外でビジネスをする際、ISO認証は国際的なお墨付きをもらえるところになります。特に重要視されるのは品質マネジメントシステムの規格「ISO9001」です。

ISO9001は、製品やサービスを提供するまでの作業環境のマニュアル化です。作業の工程をマニュアル化することで誰が作っても同じで高い品質を維持できます。

ISO9001の認証数は189カ国、およそ107万(出典…2021年現在ISO Survey2021)となっており世界で最も普及しているマネジメントシステムです。

ISO9001を取得すると国際的な信頼を得られ輸出の際に有利であり、また、国内の顧客に対しても信頼獲得や組織の活性化にも有効です。

三 ISO認証のメリット

(1) PDCAサイクルが作れる
ISOのマネジメントシステム規格には組織を管理運営するために必要となる「要求事項」が定められています。ISOの規格の構成はどの規格もほぼ同じになっていますが、その規格の中で特徴的な要求事項が「PDCAサイクル」による継続的改善です。

PDCAとは、「Plan(計画を立てる)」、「Do(実行する)」、「Check(確認する)」、「Action(改善する)」で、この4つの項目を繰り返し行うことで手順やルールを明確に定め企業のシステムを構築します。それを試行錯誤することで継続的に改善され企業体質の改善や強化が図られます。

(2) 責任と権限が明確になる
手順を明確にしてマニュアルを作成することで責任や権限の